

結核の予防接種について (BCG)

BCGワクチンは、結核を予防するワクチンです。

結核について

結核菌の感染で起こります。感染者のすべてが発病するわけではなく、感染してから長期間潜んでいた結核菌が、免疫力が衰えたときに活性化して発病することがあります。国内の結核患者はかなり減少しましたが、毎年2万人を超える患者が発生しているため、大人から子どもへ感染することも少なくありません。乳幼児は結核に対する免疫が弱く、母親を通じての免疫もないので、全身性の結核症にかかったり、結核性髄膜炎になることもあり、重い後遺症を残す可能性があります。

BCG ワクチンについて

BCGは牛型結核菌を弱めた生ワクチンで、管針で上腕2か所にスタンプ式に接種します。針あとから少し血がにじむこともありますが、接種後はもんだり、出血を拭いたりせず、ワクチンが衣服・髪などにつかないように注意して、日陰で十分乾燥させてください。この接種により、結核の発病を接種しなかった場合の4分の1くらいに抑え、結核性髄膜炎や粟粒結核など、小児の重篤な結核の発病を防ぐ効果が確認されています。

副反応

BCG接種後10日くらい経つと、接種した箇所に赤いポツポツができ、一部に小さいうみができることがあります。この反応は、接種後、4週間頃に最も強くなりますが、その後は、かさぶたができて接種後3か月までには治り、小さな傷あとが残るだけになります。これは異常反応ではなく、BCG接種により免疫がついた証拠の反応なので、絆創膏や包帯はしないで清潔に保ってください。自然に治ります。

ただし、接種後3か月を過ぎても接種のあとがジクジクしているようなときは、医師にご相談ください。また、まれに、接種側のわきの下のリンパ腺が腫れることがあります。ただれたり、大変大きく腫れたり、化膿してうみがでる場合なども、医師に御相談ください。

また、稀にショック・アナフィラキシー、全身播種性BCG感染症、骨炎・骨髄炎・骨膜炎、皮膚結核様病変（狼瘡、腺病性苔癬など）が報告されています。

コッホ現象について

結核に感染している人が、BCG接種を受けた場合、接種後10日以内に、接種局所の発赤・膨脹及び針痕部位の化膿などの症状が現れ、通常2週間から4週間後に消炎、癬痕化し、治癒する一連の反応が起こることがあり、これをコッホ現象といいます。コッホ現象と思われる反応が見られた場合は、速やかに接種医療機関で、医師の診察を受けてください。

対象者及び接種スケジュールについて

接種対象者

1歳未満

(標準的な接種期間)

生後5か月から7か月

- ※対象年齢を過ぎると、公費での接種は受けられなくなります。
- ※結核にかかったことがある人は接種できません。

接種時に持参するもの

- ① BCG 接種予診票
- ② 母子健康手帳（接種歴を確認するとともに、予防接種を受けたことを記録します。）